

先進事例検索システム

事例No.	3325
公表年度	R6
団体の属性	市区
団体名	茨城県常総市

事例区分 (大)	地域活性化	事例区分 (小)	関係人口
-------------	-------	-------------	------

事例種類	消防・防災
------	-------

事例内容・タイトル

地域住民の自助・共助を高めるための防災スポーツ

出典

地方自治研究機構 先進事例調査研究（令和6年度）

地域住民の自助・共助を高めるための防災スポーツ

取組のあらまし

取組団体 茨城県常総市

取組内容 地域住民の自助・共助の意識を高めるための防災教育の一環として、「防災スポーツ」を市立小学校の児童向けに実施

推進体制 5名程度（令和6年度：実施日に対応する教職員含む）

予算等 約6,000千円（令和6年度）／約3,900千円（令和5年度）

1 茨城県常総市の概要

人口 6万1,180人 令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）

職員数 402人 令和6年4月1日現在（一般行政部門）

総面積 123.64km² 令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 茨城県常総市の位置図



出所：常総市ウェブサイト

(https://www.city.joso.lg.jp/kurashi_gyousei/shisei/intro/profile/position_terrain.html)

2 取組の背景・目的

(1) 常総市における「防災教育」の政策的な位置づけ

茨城県常総市は、平成27年（2015年）9月関東・東北豪雨（以下「関東・東北豪雨」という。）における被災を受けて「災害に強い常総市」を目指し、防災に関するソフト面からハード面までのさまざまな取組を展開している。

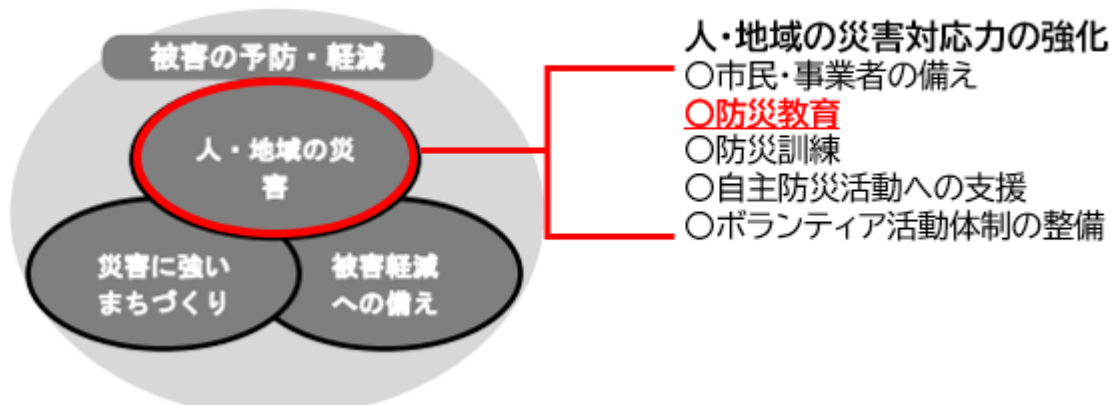
関東・東北豪雨は、常総市に甚大な被害をもたらした。河川の溢水や堤防の決壊の影響で、本庁舎を含む市内のおよそ3分の1にあたる約40㎢が浸水した。

常総市地域防災計画（令和6年（2024年）4月改訂）によると、関東・東北豪雨による令和元年（2019年）12月末時点での常総市の人的被害は、災害関連死を含め死者15名、負傷者が44名であった。また、住宅被害は全壊53件、床上浸水193件、床下浸水2,508軒に及んだ。市の総合的な防災計画を定めた「常総市地域防災計画」（以下「地域防災計画」という。）では、関東・東北豪雨災害の教訓を反映している。

地域防災計画のうち、「第2編 災害予防編」では、災害時における被害の予防・軽減のために日頃の防災に対する取組を強化し、市民、事業者、市職員、関係機関の職員が一丸となって減災・防災に取り組むべき内容を整理している。

取組内容は、①人・地域の災害対応力の強化、②災害に強いまちづくり、③被害軽減の備えの三位一体の取組として構成されている。①人・地域の災害対応力の強化では、大規模災害時における地域住民や事業者による自発的な救助活動や避難誘導等の重要性を指摘し、自助・共助の視点から必要な取組を定めている。そのうちの一つに「防災教育」が位置づけられている。

図表 2 被害の予防・軽減のための三位一体の取組みにおける「防災教育」の位置づけ



出所 常総市『常総市地域防災計画』から当機構作成

（2）防災スポーツの取組が始まった背景

地域防災計画では、「教育施設における防災教育」が位置付けられ、児童・生徒の発達段階に応じて、教育施設（保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等）で、防災知識等の習得、意識の高揚、身体の安全確保の方法の習得を図ることが位置付けられるなど、常総市ではこれまで子供たちへの防災教育に重点を置いて取組を進めている。

そのような背景もあり、令和4年（2022年）9月から、防災に関する知識を習得し、防災意識の高揚につなげるべく、民間事業者（株式会社シンク）が開始した、スポーツの持つ親しみやすさを取り入れた取組である「防災スポーツ¹」を市立小学校の児童を対象に実施している。

3 取組内容

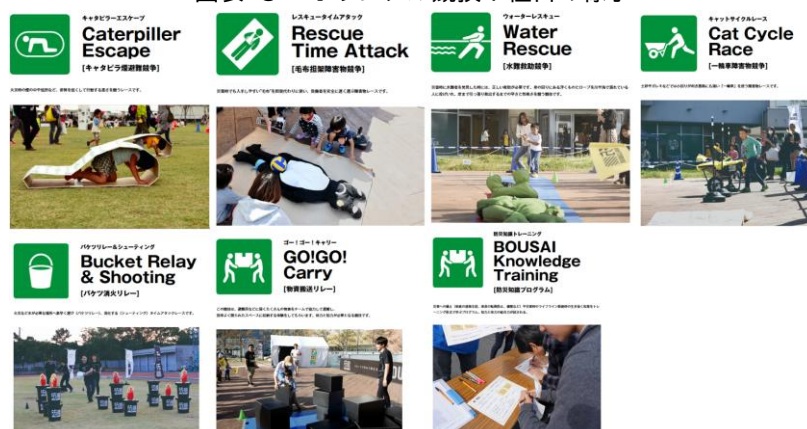
（1）防災スポーツの概要

防災スポーツは、スポーツとして競技性を持たせつつ、防災の知恵と技を、体を動かしながら学ぶことができる独自の競技が行われる。

例えば、「キャタピラエスケープ（キャタピラ避難煙競争）」では、火災時における室内からの避難を想定し、ティッシュペーパーを口にあてながら、四つんばいの姿勢で段ボール製のキャタピラを前進させ、ゴールまでのタイムを競う種目である。この体勢や動き方は、煙の中や低所における移動の仕方と同一の動き方を、競技の中で身に着けることができる。

毛布を担架と見なし障害物を避けながら負傷者を速く運ぶ「レスキュータイムアタック（毛布担架障害物競争）」や、障害物を避けながら物資を載せた一輪車を運搬する「キャットサイクルレース（一輪車障害物競争）」等、オリジナル競技は全部で7種目（図表3）ある。

図表 3 オリジナル競技7種目の様子



出所：防災スポーツホームページより当機構作成

¹ 防災スポーツ：防災をスポーツとして体験・学習するプログラム。株式会社シンク（東京都千代田区）が開発・提供し、同社の登録商標である。

（2）常総市による防災スポーツの開催事例

常総市による防災スポーツの取組は令和4年（2022年）9月から始まり、令和6年（2024年）11月末時点で市内小学校を中心に延べ24回開催し、延べ1,200人が参加している。

防災スポーツは、主に小学校における防災学習の授業として実施し、5年生や6年生の高学年を対象としている。小学生が毎年度の防災学習の授業を通じて身につけた災害時における行動の知識やノウハウの実践の場として機能している。

実施に当たっては、年度当初に開催する学校長との会議で、市から、防災スポーツの実施内容や実施対象となる学年を説明し、事業実施に向け、学校側の理解が得られるようにしている。説明を踏まえ、実施する意向を有する学校と市の間で調整を行い、日程を確定させていく。

あわせて、防災スポーツのコンテンツを運営する株式会社シンクと、日程や市などの要望に応じた実施プログラムを協議し、準備を進めていくこととなる。

令和5年（2023年）7月18日に常総市立絹西小学校の6年生を対象に防災スポーツを実施した事例では、競技種目は、キャタピラエスケープ、レスキュータイムアタック、キャットサイクルレースの3種を選定し実施された。

株式会社シンクは主に、全体の進行等を担い、市の職員や防災士は会場の準備や運営の補助、小学校の教員等は児童生徒の補助を行う役割分担で実施し、子供たちからは「楽しい」、「防災について学べてよかった」との意見が寄せられた。

図表 4 絹西小学校における実施の様子

キャタピラエスケープ



レスキュータイムアタック



キャットサイクルレース



出所：常総市立絹西小学校ウェブサイト
(<https://www.joso.ed.jp/kensei-e/index.cfm/1,2570,48,html>)

4 成果・課題

（1）取組の成果

本取組は、参加者に対しスポーツを通じて防災の知恵と技を、体を動かしながら楽しく学べる場を提供している。防災に関する知識やノウハウの習得だけでなく、防災を身近に感じることで参加者の防災意識の醸成も示唆される。地域住民の自助・共助を高め、地域における災害対応力向上に繋がるものと考えられる。

（2）今後の課題

防災スポーツのコンテンツは、民間事業者がその独自のノウハウを生かして提供しているものであり、子供たちにとって楽しく学べる機会を継続的に確保するために、予算の確保が重要となってくる。

また、職員が運営補助として開催支援を行っているが、複数の学校で実施している事業で、通常業務と並行して実施しているため、規模が拡大すると、対応する時間の確保等が困難となるなど職員負担もあるため、負担軽減が課題である。

また、職員とともに防災士も共に参加するが、年齢差による子供たちとの体力差もあることから、補助スタッフとして活躍できる防災士の確保も重要となっている。

関連・参考資料

常総市「防災先進都市を目指す常総市の取り組み」

https://www.city.joso.lg.jp/kurashi_gyousei/kurashi/bousai_koutsu/bousai/effort/bousaidx/page002480.html

常総市「常総市地域防災計画（令和6年4月）」

https://www.city.joso.lg.jp/data/doc/1715834757_doc_28_0.pdf

常総市立絹西小学校「防災スポーツ体験」

<https://www.joso.ed.jp/kensei-e/index.cfm/1,2570,48,html>

防災スポーツホームページ

<https://bouspo.jp/index.html>